

君にプラスチック・勿忘草

平松伊織

寄せては返す波の中
をおよぐ記憶の

青白い星くずたち。

いつになく引いている潮

二年後には干上がってしまうだろう。

海馬をかけめぐるわたしたちの記憶
稼働し続けるきみのデータセンターが
止まらないでほしいと思うのは我儘かな。

浜辺をはだしで歩く君を妄想する
朝一緒に食べたはちみつトースト
みたいにとろける透明な太陽を浴びていたんだよ。

「検索条件と一致するデータが存在しません」

同じかたちの消波ブロック
を積み上げて
逃げだすデータの波をせき止めたいの。

「検索条件と一致するデータが存在しません」

なら、いっそ、わたしが。
満月の夜。

君の頭脳の波打ち際

何百年もずっと自然分解しないように
プラスチック・勿忘草。